

一部構成員限り

「競争ルールの検証に関するWG（第30回）」

事業者ヒアリングご説明資料

2022年5月11日



一般社団法人リユースモバイル・ジャパン

一般社団法人リユースモバイル・ジャパンについて

●概要：
リユースモバイル端末市場の健全な発展と消費者保護を目的として、「リユースモバイル・ジャパン (RMJ)」を設立、2020年4月7日に一般社団法人化しています。

●設立：2017年3月14日 / 一社化2020年4月7日

●理念
リユースモバイル通信端末市場の発展により、多様で低廉な通信サービスが安心して安全に消費者に提供される社会の形成を目指す。

●ビジョン
リユースモバイル通信端末市場の健全な発展および消費者保護を目的とした安心・安全なリユースモバイル通信端末流通の促進を行うことを目的とする。

- 事業内容
- (1) リユースモバイル事業者の認証
 - (2) リユースモバイル通信端末に関する事業の認知度向上を目指す広報・啓蒙活動
 - (3) リユースモバイル通信端末事業者における古物営業法等の法令順守のための活動
 - (4) リユースモバイル通信端末事業に係る関連省庁との連携
 - (5) 関連事業者(キャリア・メーカー・MVNO事業者等)および業界団体との連携
 - (6) リユースモバイル通信端末事業の健全な発展に関する政策提言
 - (7) 優良かつ透明性の高いリユースモバイル通信端末事業者の育成(データ管理・不正端末流通防止等に関するガイドライン策定等)
 - (8) 会員相互の連絡と共通する課題の共有
 - (9) 前各号に掲げる事業に付帯または関連する事業

●運営体制 (順不同)

理事長	栗津 浜一	株式会社ニューズドテック
副理事長	船橋 吉威	ブックオフコーポレーション株式会社
理事	有馬 知英	日本テレホン株式会社
	長谷 真彦	株式会社ソフマップ
	田中 開新	株式会社イオシス
	執行 達也	エコケー株式会社
	吉岡 浩之	インバースネット株式会社
監事	宮坂 浩一	株式会社クリエーション
	石黒 直哉	株式会社ゲオ
会員	25社	正会員：16社 賛助会員9社



■ 正会員企業 (順不同)



■ 賛助会員企業 (順不同)



- リユースモバイル事業者認証委員会：5名 (外部有識者4名含む)
- オブザーバー：総務省 (リユースモバイル認証制度オブザーバー)

モバイル市場の競争環境に関するヒアリング事項案(第3回ヒアリング分)

事業者等	主なヒアリング事項案	
中古端末 取扱事業者	○ 端末市場の動向	
	<ul style="list-style-type: none"> 全体 	<ul style="list-style-type: none"> 報告書2021以降の中古端末流通市場の動向はどうか。今後の見通しはどのようなものか。 SIMロック原則禁止をはじめとする一連の政策による中古端末市場への効果・影響についてどのように評価しているか。 中古端末の流通に係る課題として考えられることは何か。 中古端末取扱事業者認証制度の現状はどうか。
	○ 携帯電話端末の対応周波数の制限	
	<ul style="list-style-type: none"> 中古端末取扱事業への影響 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア端末のうち、特定のキャリアの周波数を中心に対応した端末(当該特定のキャリア以外のキャリアの周波数には十分に対応していない端末)が販売されていることにより、中古端末取扱事業にどのような影響があるか。
	<ul style="list-style-type: none"> 利用者への情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア端末のうち、他キャリアの周波数に十分に対応していない端末が販売されていることに関し、これまで利用者からはどのような問合せがあったか。 中古端末として、特定のキャリアの周波数を中心に対応した端末を販売する場合、当該特定のキャリア以外のキャリアで使用しようとしても通信に一定の制限等がかかる可能性があることについて、これまで利用者にはどのような情報の提供を行っているか。
	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な方策 	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話端末について、例えばプラチナバンドなど、キャリア全社の主要な周波数帯に対応することがルール化又は業界標準化されることについて、中古端末取扱事業者及び中古端末利用者の観点からのメリット・デメリットを含め、どのように考えるか。

ヒアリング事項に対する回答①

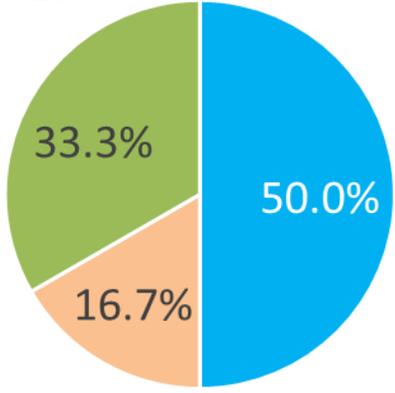
✓ 端末市場の動向

	ヒアリング事項	回 答
全体	・報告書2021以降の中古端末流通市場の動向はどうか。今後の見通しはどのようなものか。	過半の会員から買取や販売が増加したとの意見があり、政策評価については今後も含めて高い評価となっている。他方、いまだに事業者施策における一括10円等の販売もみられ、 完全分離が義務付けられた後も、新品価格が中古価格より安いといった状況に疑問を感じる といった声もあった。
	・SIMロック原則禁止をはじめとする一連の政策による中古端末市場への効果・影響についてどのように評価しているか。	アンケート回答した 全会員が「評価する」 の回答となっており、中古端末事業者にとってもそうだが、 消費者にとって非常にメリットがある政策 であるとの意見が多数を占めた。
	・中古端末の流通に係る課題として考えられることは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク利用制限の在り方と適用ルールの見直し ・リユースモバイル事業者向けの連携窓口の設置/大口対応 ・SIMロック解除の確認方法の簡素化 ・付帯情報の一括消去対応（フェリカデータ等） ・消去機能では消えないMDM（デバイス管理）への対応
	・中古端末取扱事業者認証制度の現状はどうか	新たに1社「ヤマダホールディングスグループのインバースネット社」が認証を取得した。 認証制度を評価する声が過半を占めるも、認知度不足から取得意向の向上にはまだ課題がある。

端末市場の動向に関するアンケート結果 1/4

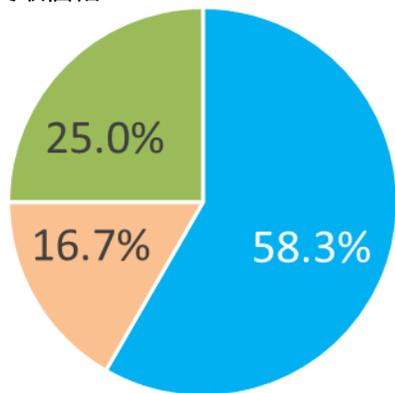
・報告書2021以降の中古端末流通市場の動向は どうなっているか。

1) 買取台数



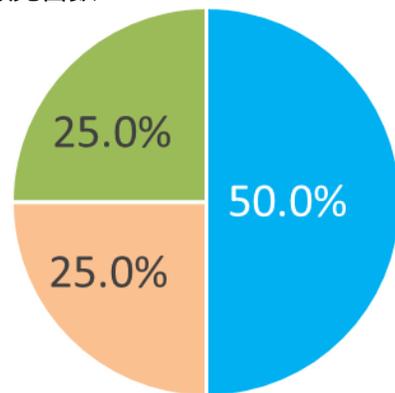
■ 増えた ■ 減った ■ 変化なし

2) 買取価格



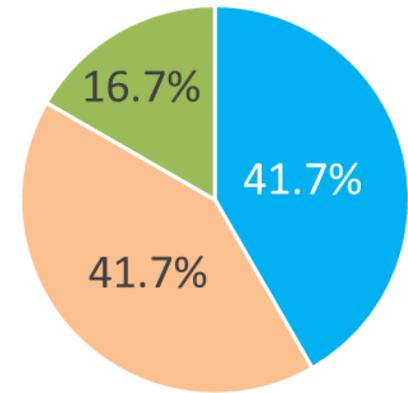
■ あがった ■ さがった ■ 変化なし

3) 販売台数



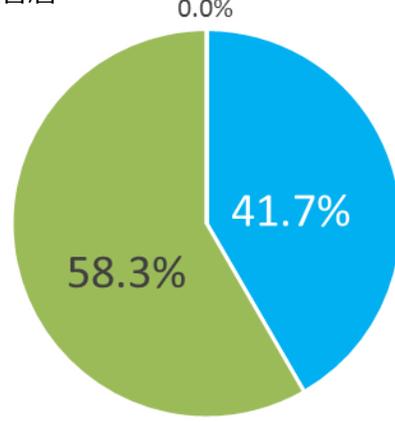
■ 増えた ■ 減った ■ 変化なし

4) 販売価格



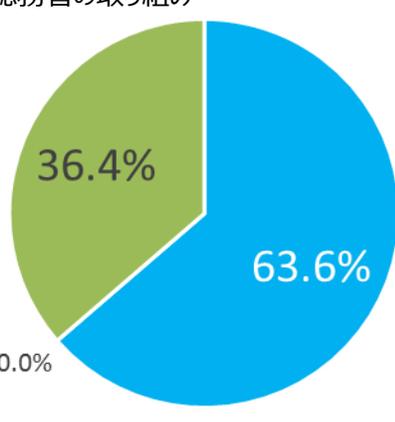
■ あがった ■ さがった ■ 変化なし

5) 顧客層



■ 広がった ■ 変化なし ■ 他

6) 総務省の取り組み



■ 評価する ■ 評価しない ■ どちらでもない

7) 会員意見

政策評価：

- ・SIMロック解除がMNOのサイトからできるようになったことにより、販売しやすくなった。
- ・消費者の通信費端末費の削減意欲があがっている。
- ・中古端末の最大のメリットである安さがアピールしやすくなった。
- ・政策により、中古市場の認知度が高まり、消費者の選択肢増加につながった。

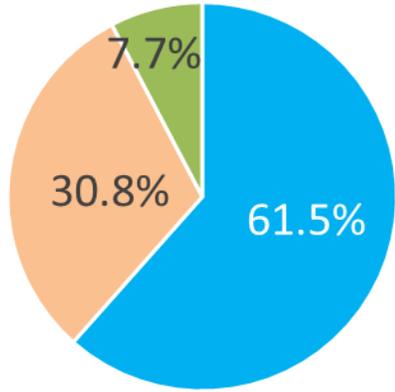
市場環境：

- ・新型コロナ影響により、新品人気端末の流通量鈍化影響から、端末調達に苦戦し、結果的に数量は減少した。
- ・各キャリアで最新モデルなのに一括1円等の販売が見受けられることについては、事業法改正の主旨に反しているのではないか。
- ・そもそも新品価格が中古品より安価で設定されている状況はおかしくないか。

端末市場の動向に関するアンケート結果 2/4

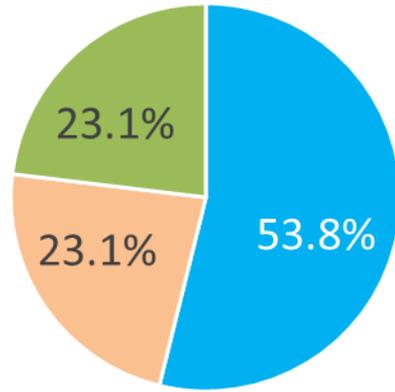
・今後の中古端末流通市場の見通しはどのようなものになるか

1) 買取台数



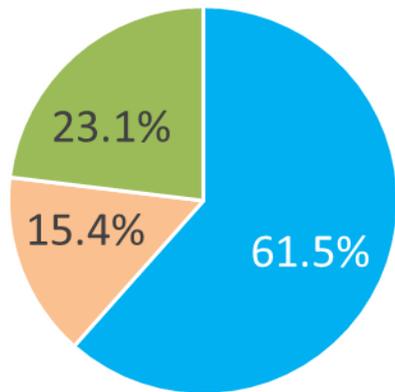
■ 増える ■ 減る ■ 変化なし

2) 買取価格



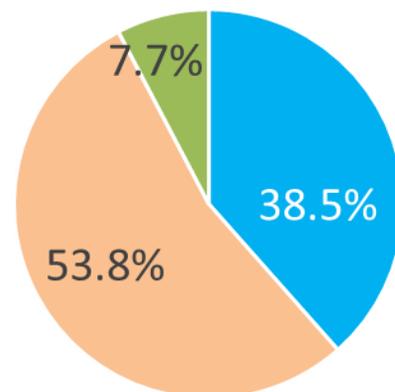
■ あがる ■ さがる ■ 変化なし

3) 販売台数



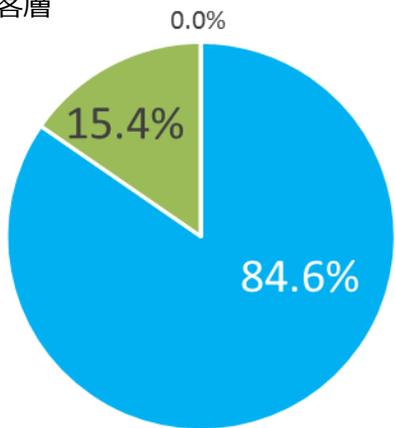
■ 増える ■ 減る ■ 変化なし

4) 販売価格



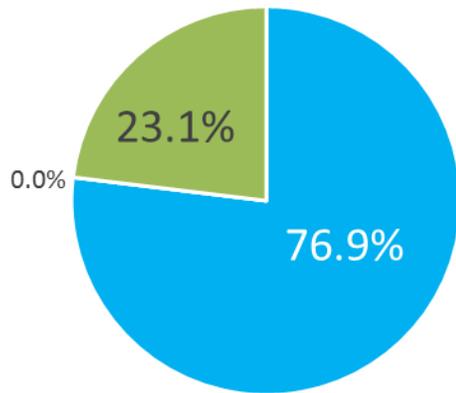
■ あがる ■ さがる ■ 変化なし

5) 顧客層



■ 広がる ■ 変化なし ■ 他

6) 総務省の取り組み



■ 貢献する ■ 貢献しない ■ どちらでもない

7) 会員意見

政策評価

- ・この取り組みが認知度向上と市場拡大に寄与する
- ・顧客層が広がると見込む

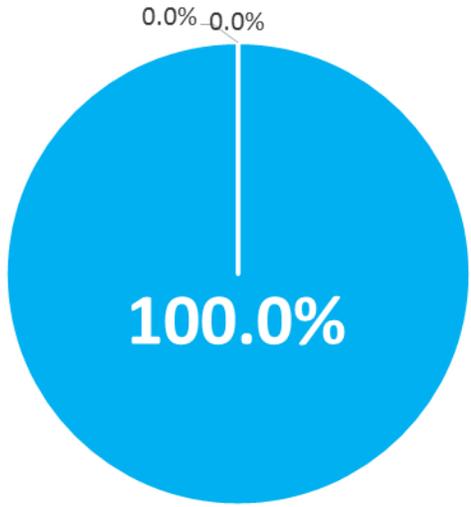
市場環境

- ・デバイスの高価格化、製品寿命の長期化により中古デバイス需要は増えているものの、参入が増え、競争、淘汰が進むと思われる。
- ・大手キャリアがレンタルや中古携帯の取り扱いを始めており市場優位性を利用しているように感じる
- ・コロナの影響による市場の落ち込みも有る程度回復してきたが 1回目の緊急事態宣言前の数字と比べるともう少し上がる余地があると思われる。また端末価格に関しては半導体不足やインフレ懸念などの要因で今年発売のiPhoneSE第3世代の価格が第2世代に比べると値上がりしたこともあり、年末辺りまでは単価が上がると予測する
- ・中古端末ニーズは引き続き高まりつつ推移するものの、コロナやロシア影響により、端末流通量の低下は否めず、当面中古端末の流通台数は鈍化すると予測。

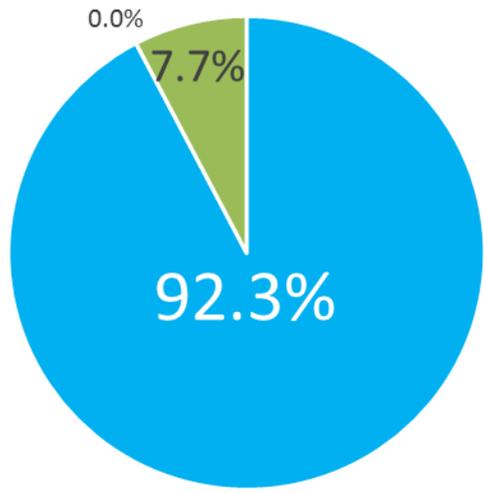
端末市場の動向に関するアンケート結果 3/4

・SIMロック原則禁止をはじめとする一連の政策による中古端末市場への効果・影響についてどのように評価しているか。

1) 総務省の一連の政策



2) SIMロック原則禁止化



■ 評価する ■ 評価しない ■ どちらでもない

3) 会員意見

政策評価

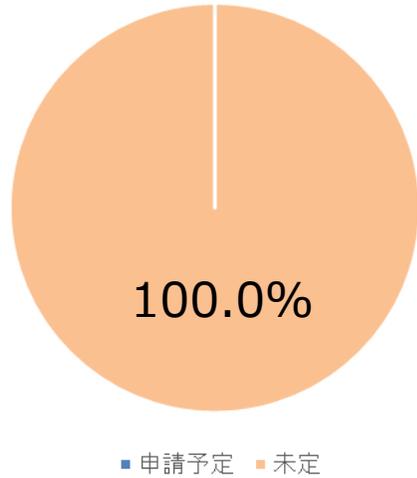
- ・SIMロック原則禁止化で流通しやすい状況ができてある
- ・売りやすくなる
- ・SIMロック解除により販売顧客が大幅に増えるので業界にとってプラス
- ・SIMロック端末が減ることにより、中古市場の活性化が期待できる
- ・端末の流動性が高まり、端末市場の流通促進に対し、好影響となったことは間違いない。
- ・SIMロック禁止化による効果は消費者への提供しやすさという点で効果が出ています。
- ・SIMロック禁止化は評価しますがネットワーク利用制限が未だに存在する理由が理解できない。

・中古端末の流通に係る課題として考えられることは何か

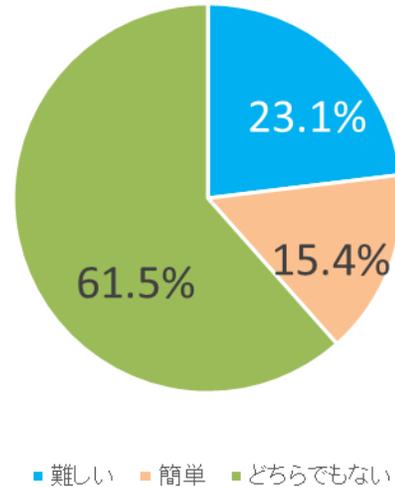
中古端末の流通に係る課題	会員要望比率
・ネットワーク利用制限の在り方と適用ルールの見直し	85%
・海外輸出中心型から国内流通量増加検討	77%
・リユースモバイル事業者向けの連携窓口の設置/大口対応	85%
・SIMロック解除の確認方法の簡素化	100%
・端末機能が備えるデータ消去機能の完全化と義務化	85%
・付帯情報の一括消去対応 (フェリカデータ等) ・消去機能で消せないMDM (モバイルデバイス管理) 対応	92%
・リファービッシュ品のより詳細な定義化 ・リファービッシュ品の国内流通促進に向けた協議 ・純正修理部品の調達	62~77%
・C2C取引時における端末の評価基準や安心安全評価および機能評価に関する基準の明確化	67%
・プラットフォーム向けガイドラインの整備	83%

・中古端末取扱事業者認証制度の現状はどうなっているか

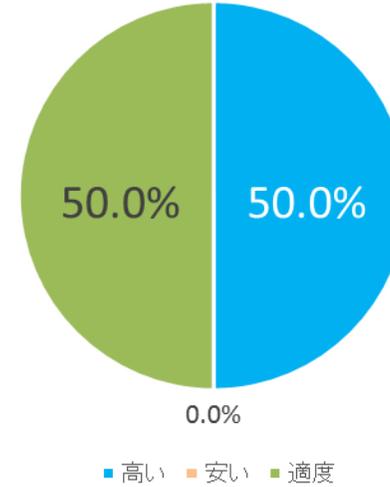
1) 認証制度取得予定



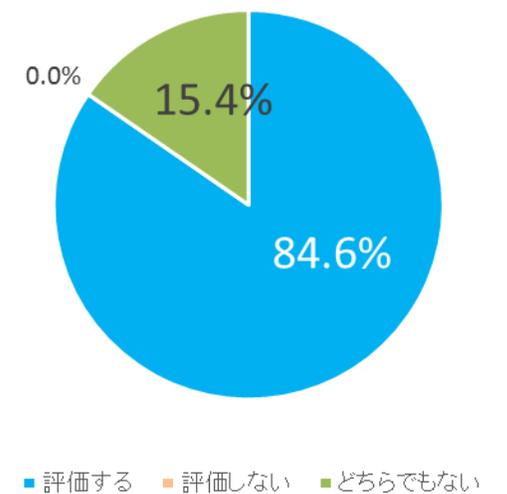
2) 取得難易度



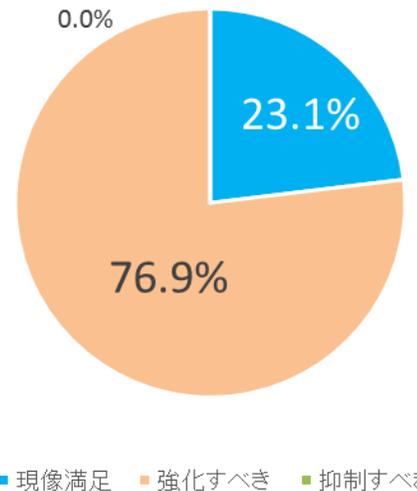
3) 取得費用



4) 認証制度について



5) 認知度向上に向けた活動



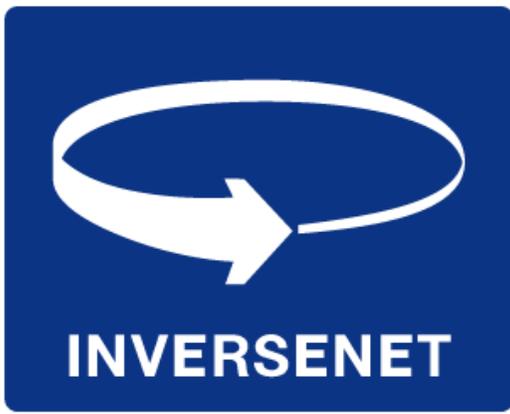
6) 会員意見

- ・オンラインと卸売がメイン業態となるが、認証制度がどの程度マッチしているかわからない。
- ・少なくとも理事は認証取得が必要ではないか
- ・多店舗企業より認証すべき
- ・初回認証は別にして、更新費用等の見直しが必要ではないか（継続コストの高さがネックか）
- ・取得難易度を下げる必要はないが、取得に向けたフォローや支援サービスも必要でないか
- ・認知活動はさらに高めていく必要あり

ヤマダホールディングスグループのインバースネット社がRMJ認証取得！

他方、認証取得済企業以外の会員企業で取得未定が100%の状況
制度評価は高いが認知度向上に向けて活動を強化すべきとの意見が80%を超えていることから、様子見の状況か。

新たな認証事業者



 **YAMADA** HLDGS.

インバースネット株式会社



ヒアリング事項に対する回答②

✓ 携帯電話端末の対応周波数の制限

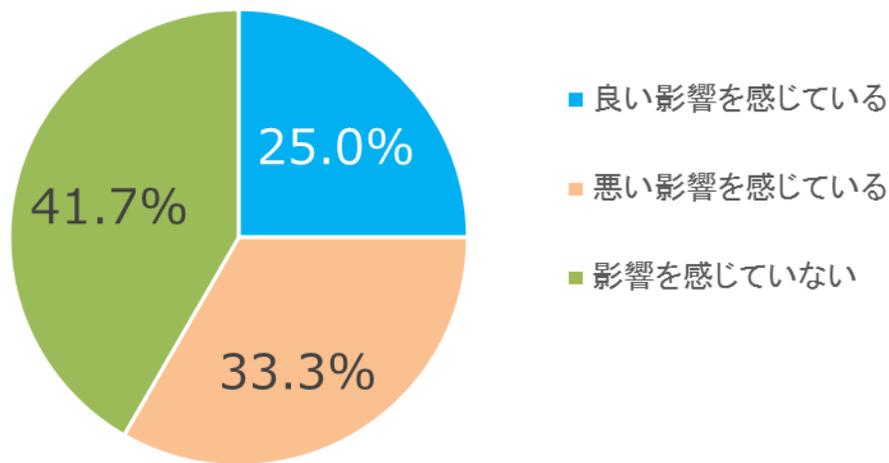
	ヒアリング事項	回 答
中古端末取扱事業への影響	<ul style="list-style-type: none"> キャリア端末のうち、特定のキャリアの周波数を中心に対応した端末（当該特定のキャリア以外のキャリアの周波数には十分に対応していない端末）が販売されていることにより、中古端末取扱事業にどのような影響があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 細かな説明が必要な部分が出てくるため、中古事業者としてはSIMフリーを強調しづらい（消費者の前向きな認知に繋がりにくい）状況が継続されると感じている 周波数に対応したiPhone中心になる。（なっている）
利用者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> キャリア端末のうち、他キャリアの周波数に十分に対応していない端末が販売されていることに関し、これまで利用者からはどのような問合せがあったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 端末またはSIMが対応していないので返品したい。交換したい。 問合せ先がわからない。（たらいまわし）
	<ul style="list-style-type: none"> 中古端末として、特定のキャリアの周波数を中心に対応した端末を販売する場合、当該特定のキャリア以外のキャリアで使用しようとしても通信に一定の制限等がかかる可能性があることについて、これまで利用者にはどのような情報の提供を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> WEBサイトや掲示物等で注意喚起 キャリア名を示し、バンドへの対応を示す。 販売時に利用中または契約予定の会社をヒアリングし、注意喚起。
具体的な方策	<p>携帯電話端末について、例えばプラチナバンドなど、キャリア全社の主要な周波数帯に対応することがルール化又は業界標準化されることについて、中古端末取扱事業者及び中古端末利用者の観点からのメリット・デメリットを含め、どのように考えるか。</p>	<p>メリットとして、利用者が安心して購入できるようになり、中古端末事業者も販売しやすい環境が整う。</p> <p>デメリットとして、キャリア独自の付加価値や特性を備えた端末の減少や、販売量の少ないメーカーにとってコスト高となり結果消費者の選択肢が減少する可能性を危惧。</p>

✓ キャリア各社による「中古端末」取扱い開始について

RMJ会員ヒアリング結果

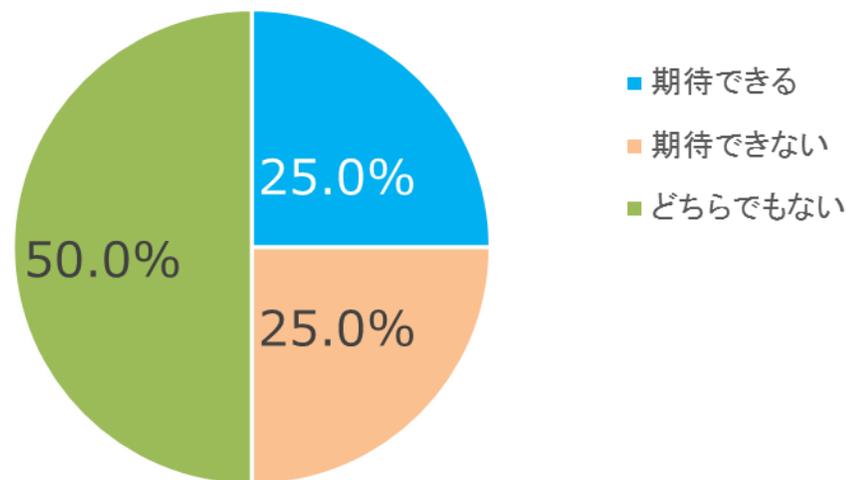
①業界影響

良い影響を感じているは25%



②業界発展

期待できるは25%



③その他、寄せられた意見

- ・現状のキャリアの中古品は単体購入できず、製品保証もなく、消費者にとって我々事業者から購入すること以上のメリットは特になく見受けられます。
- ・海外ではリファービッシュ品の扱いがあるが日本でも予定しているか気になる。
- ・いずれのキャリアもcertified（認定中古）表示で統一されているが、それぞれに基準となる項目と優位性をアピールするポイントがあるように見える。基本項目（データ消去や点検検査項目等）についてRMJガイドライン等の連携も検討いただければありがたい。（消費者へのわかりやすさや、必要であろう点検項目についての協議検討更新等、協力して消費者への安心安全な対応を促進していけることが望ましい）
- ・キャリア側で「ネットワーク利用制限が×にならない保証をする」のであれば中古事業者にも制限を開放するべき、この点において業界発展は閉ざされると感じる。
- ・始まったばかりで影響自体を感じていないが、キャリア自体が新品と同じく値引き販売をしてきた場合に影響が出る可能性があり、健全な中古市場の醸成のためにも、目に余る安売り等はしてほしくない。

✓ 引き続き、消費者保護に向けて、啓蒙・認知度向上に向けた活動の更なる強化

全国消費生活相談員協会、国民生活センター等からのご依頼を受けて、消費者保護に向けた取り組みに協力

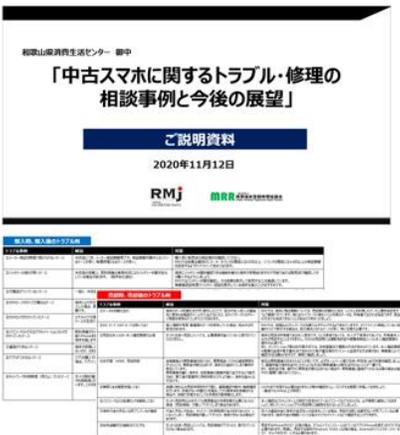
総務省「携帯電話ポータルサイト」中古端末の売買や、業界としての取り組みに関するコンテンツ提供

公益社団法人 全国消費生活相談員協会

- 全国消費生活相談員向け講義 40を超えるご質問やご意見をいただきました



- 和歌山県消費生活センター 和歌山県市町村職員等専門研修 (オンライン)



独立行政法人 国民生活センター

- 国民生活センター「消費者アスカルト」寄稿 令和2年10月号(No.98)

● 中古端末を取り巻く昨今の状況

- 取引量は右肩上がりが増加
近年の中古スマートフォン販売台数をみると、2017年度は約154万台、2019年度は約163万台と年々増加していることが分かります。
2019年10月に施行された改正電気通信事業法では、通信と端末料金の完全分離により、通信契約とセットで購入する際の端末代金の値引きに関する規制が撤廃され、中古端末の価格メリットが厚き形になりました。
またMVNOなどのいわゆる格安SIMの普及から競争性の高いSIMフリーの中古端末の流通量が増え、販売台数はますます増加傾向にあり、2025年度には販売台数265万台の見込みとの予測もあります¹⁾(図1)。
- 中古端末の利用ニーズの高まり
総務省の2018年度の電気通信事業分野における市場検証に関する年次レポート²⁾(以下、年次レポート)によると、中古端末の流通に関する認知度・利用意向調査では「既に利用したことがある」8.7%、「利用したことはないが今後利用したい」15.9%、「知らなかったが今後利用したい」4.0%、という結果となっており、全体の30%近くが中古端末に対する認識があるが、利用意向があることが推測できます(図2)。この結果は2017年度よりも6.7ポイントもアップしており、消費者の中古端末における利用ニーズが高まっていることが推測できます。
- 中古端末の取引形態と流通量
総務省が2020年2月に公表した「モバイル市場の競争環境に関する研究会」の最終報告書で2018年度の中古端末の流通量を経路別にみると、携帯電話会社のショップにおける下取り

図1 中古スマートフォン販売台数の推移・予測

図2 中古端末の流通に関する認知度・利用意向

https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/keitai_portal/



Q5 中古端末も検討してみる？

中古端末に対して、皆さんはどのようなイメージをお持ちですか？
「新品の端末よりも安く購入できる」、「でも、バッテリーの持ちが悪そう」、「故障しても保証されないのでは？」
そんな風に、中古端末は安そうだけど不安、といったイメージをお持ちの方が多いのではないのでしょうか？
しかし、**実は注意点を押さえれば、自分のニーズに合わせて、便利に使えるお得な選択になるかもしれません。**このページでは、中古端末の購入方法や注意点、中古販売業者による取組などを紹介します！



— 中古端末流通促進に向けた取組

中古端末を取り扱う事業者では、安心安全な中古端末の流通などを目的として、リユースモバイル・ジャパン (以下、RMJ) という一般社団法人を設立しています。RMJでは、中古販売業者が遵守すべき事項などをまとめた「リユースモバイルガイドライン」の公表や、優良事業者であることを認定する「リユースモバイル事業者認証制度」を実施しています。こうした取組を通じて、中古端末がより買やすくなることが期待されます！

- ① リユースモバイルガイドライン
ガイドラインの主なポイントは次の2つです。
中古端末の状態で「S・A・B・C」の5段階の格付けをすることを求めています。これを見れば一目瞭然で端末の状況が分かりますね！
- ② 端末内の個人情報の処理方法
安心して中古端末の売買ができるよう、確実な個人情報の消去が義務づけられており、端末の初期化は、買取時と検査時の2回実施しています。特に、RMJでは、個人情報保護意識が高いアメリカやEUの基準よりも厳しい方法を求めているので、安心して端末の売却や購入ができます。

③ リユースモバイル事業者認証制度

RMJでは、ガイドラインを遵守している中古販売事業者を認証する制度を運用しています。認証された中古販売事業者は、対外的に証明するための認証ロゴマークを店舗やホームページに掲載することが認められます。このマークに注目して、中古端末を選びましょう！

※現在のところ、日本アレン (株)、(株) 携帯市場、(株) ソフマップ、ブックオフコーポレーション (株) の4社が認証済み。
詳しくはRMJのWebサイトをご確認ください！ <https://rmj.jp/index.html>

消費者・関連事業者が幅広く安心して、安全に リユースモバイル端末取引ができる市場の形成と発展へ

モバイル市場の公正な競争環境の整備に向けたアクション・プランとの連携

ガイドライン遵守・事業者認証制度資格取得促進

関連事業者が消費者にとって
安心安全を第一とした基準遵守



消費者にとって自由で
安心安全なモバイル市場形成へ

消費者にとって、認証マークが
リユースモバイル端末売買の
安心安全の目印となるように



安心で安全なリユースモバイル市場の発展

アクション・プランとの連携

モバイル市場の公正な競争環境の整備に向けたアクション・プラン

- 3つの柱
- 【第1の柱】 分かりやすく、納得感のある料金・サービスの実現
- 【第2の柱】 事業者間の公正な競争の促進
- 【第3の柱】 事業者間の乗換えの円滑化

【第1の柱】 分かりやすく、納得感のある料金・サービスの実現
④ 中古端末を含めた端末流通市場の活性化



中古端末を含めた端末流通市場の活性化

消費者にとって、分かりやすく、納得感のある料金・サービスの実現と、 安全に安心して取引ができるリユースモバイル市場をめざします。

< 別 冊 >

「競争ルールの検証に関するWG（第30回）」

事業者ヒアリングご説明資料

2022年5月11日



一般社団法人リユースモバイル・ジャパン

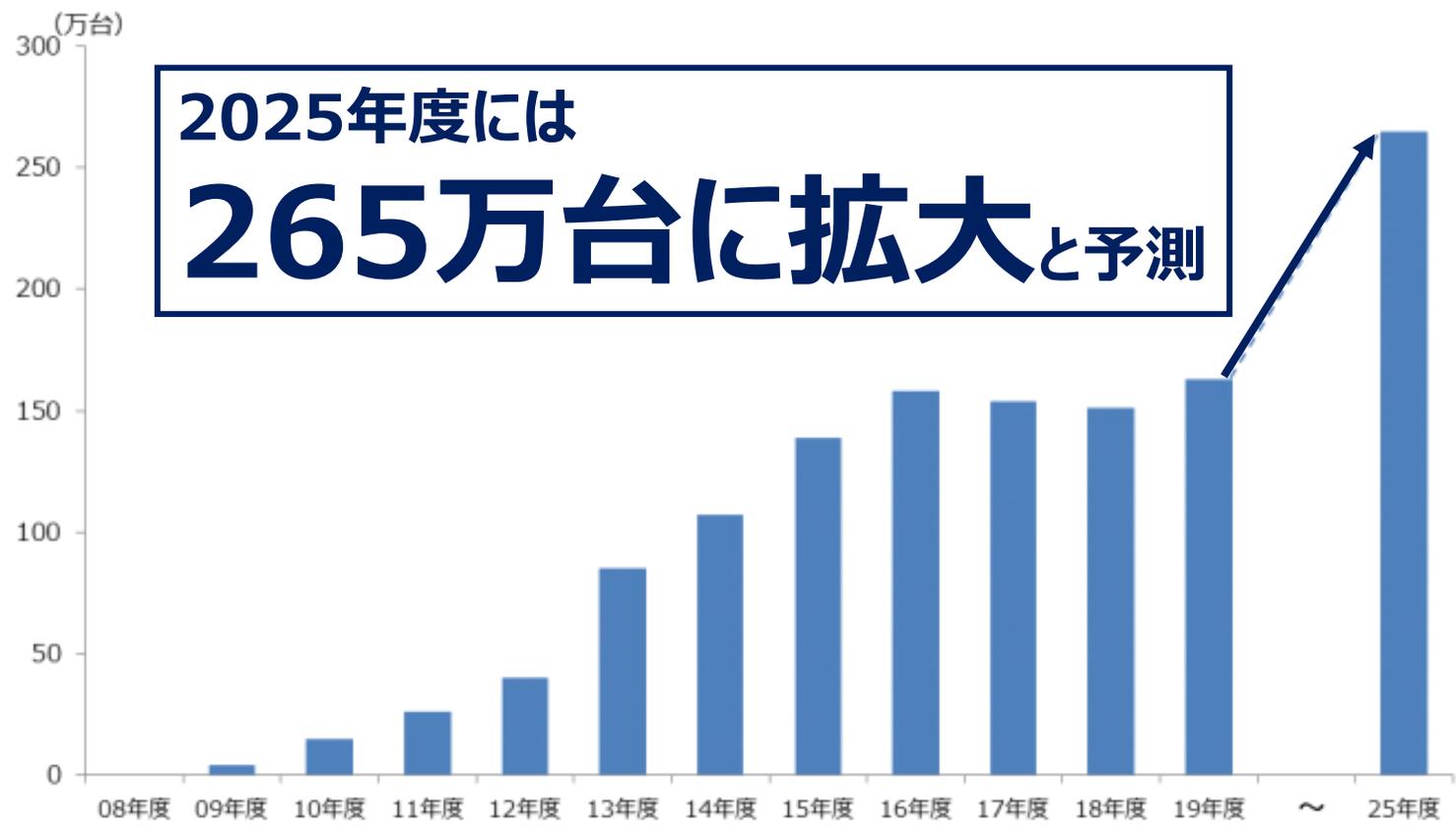
✓ 端末市場の動向

	ヒアリング事項	回 答
全体	<p>・報告書2021以降の中古端末流通市場の動向はどうか。今後の見通しはどのようなものか。</p>	<p>定量的情報として本資料にて回答させていただきます。</p>

リユースモバイル端末市場予測

- ✓ 2020年度以降の中古スマートフォン市場は微増トレンドへ
- ✓ 2025年度には265万台に拡大と予測

【中古スマートフォン販売台数の推移・予測】



新品スマートフォン出荷台数（2019年11月発表のMM総研調べ）を100%とした場合の、中古スマートフォン比率を見ると、2015年度から2018年度は5%前後で推移しているが、2019年度には5.9%となる見通し。

2020年度以降は上昇傾向となり2025年度には9.8%まで拡大と予測。

- ポイント**
- ① 全国規模で店舗網を保有する事業者の参入
 - ② 大手キャリアやMVNOによる本格的な取扱い

【中古スマートフォンの定義】
 下記条件を満たすスマートフォン販売台数
 ① 一度他人が購入した端末であり、店舗やインターネットを介した売買により取引される端末
 ② 有償・無償を問わず家族・友人・知人間での取引は含まない
 ③ キャリアモデル、SIMフリーを含む
 ④ 国内で売買される端末のみを含む（海外からの輸入端末等は含まない）

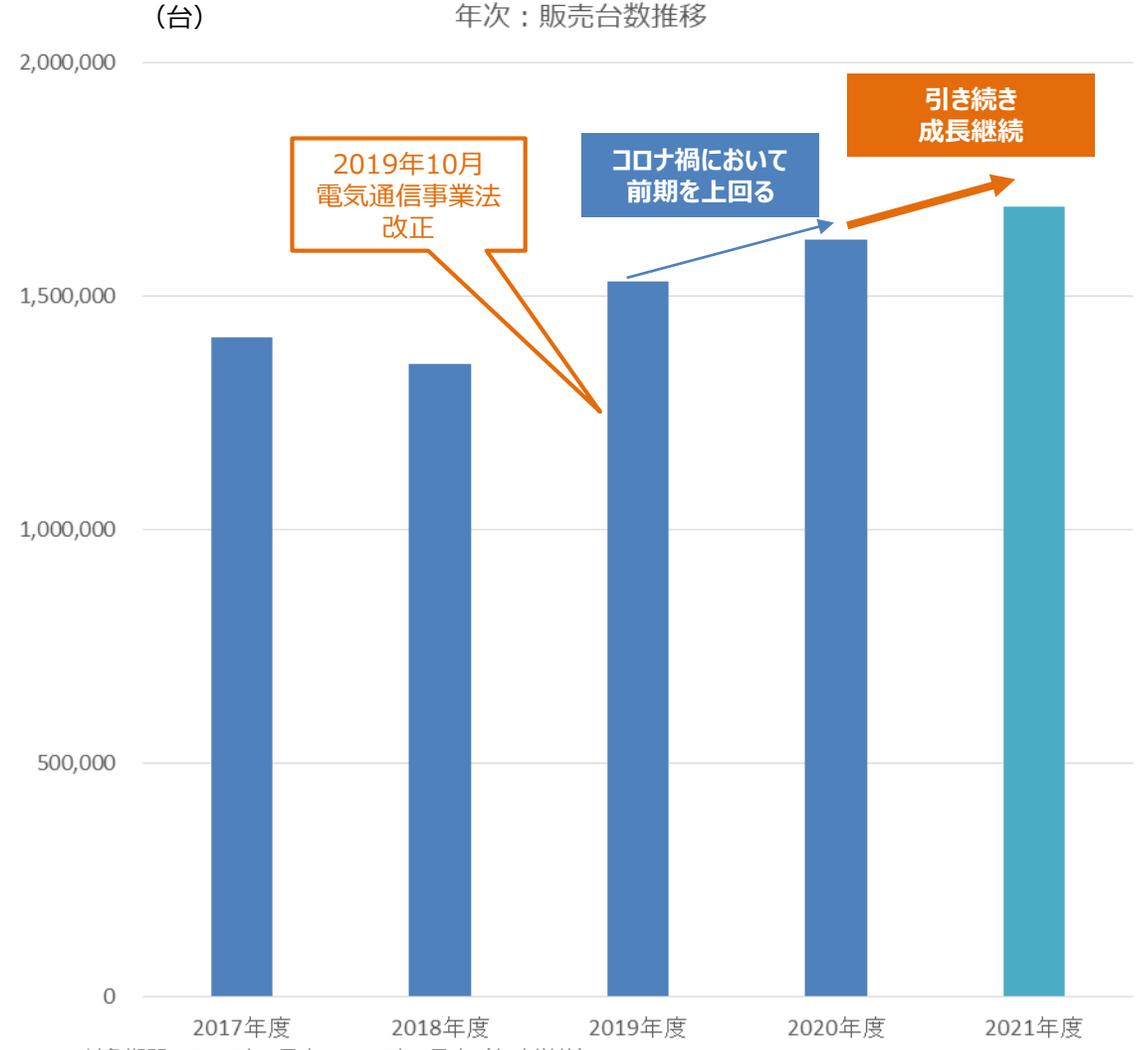
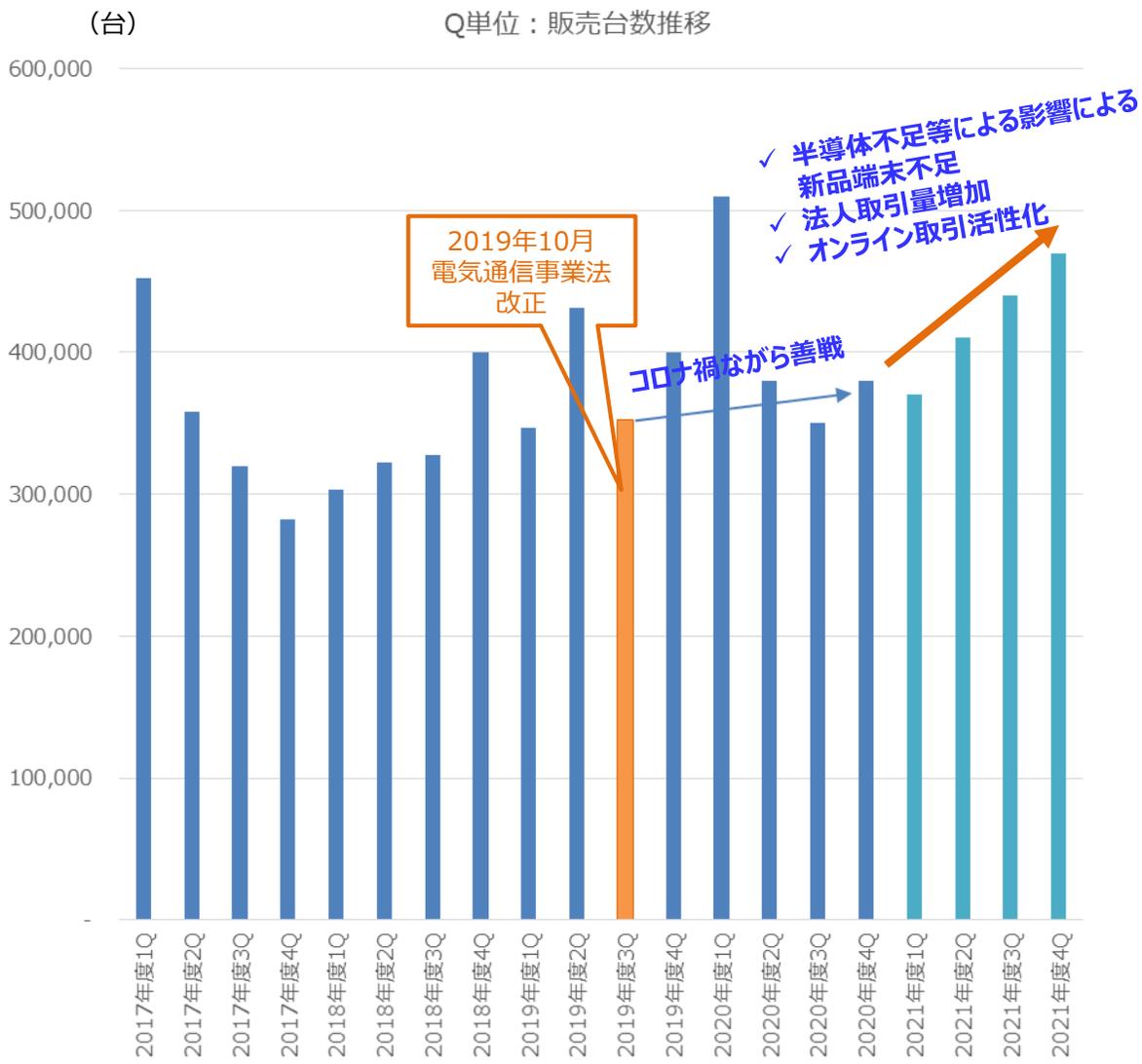
■ ユーザー調査概要
 【調査方法】 WEBアンケート調査（プレ調査：24,604件／本調査：1,587件）
 【調査時期】 2020年2月

出典：MM総研「中古スマートフォン市場規模の推移・予測（2020年3月）」

構成員限り

リユースモバイルジャパン正会員 販売台数推移

■RMJ リユースモバイル・ジャパン会員企業 実績推移 (2022年3月時点)



※対象期間：2017年3月度～2022年3月度（年度単位）
 ※OSを問わず、リユース、リサイクル対象端末の販売金額・販売台数の合計
 ※国内外、BtoB、BtoCを問わない
 ※RMJ正会員企業のデータを集計